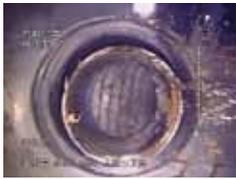


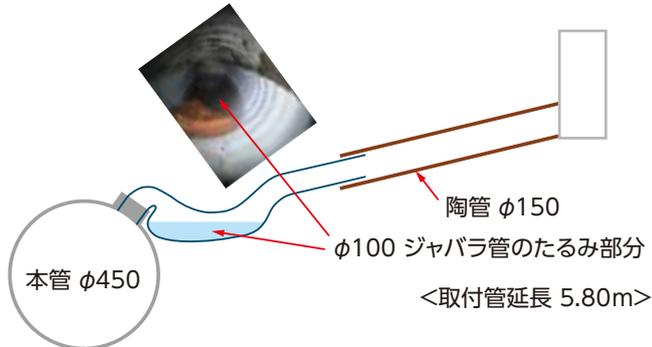
12 取付管ライニング … 開削修繕が不可能な特殊施工実例

状況

取付管調査において、φ150陶管の途中よりφ100のジャバラ管が接続されており、本管管口部分にて変形によるたるみが確認された。現場は開削が不可能で、非開削工法よっての復旧が熟望された。施工できないという可能性もあり、最悪の場合は開削となることを了承してもらい施工を行なった。



本管からの管口部分

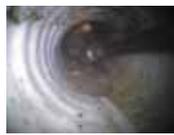
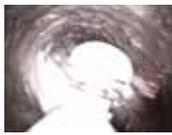


対策施工例

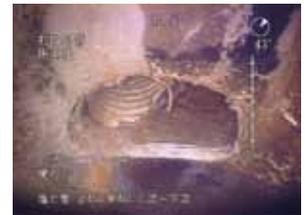
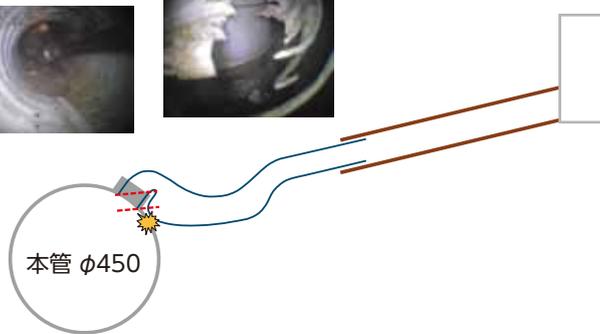
〈切削工〉

特殊ビットをとりつけた切削機等を使用し、赤点線(---)のように切削を行おうとしたが、切削が難しいと現場で判断。本来の取付管口の横に穴(☀)を開けて管路軌道を確認した。

取付管側からの切削



本管側からの切削



拡径切削後の状況

〈取付管ライニング/部分補修工〉

φ150管内にφ100の OUTER フィルムを反転挿入後、φ100の材料を反転、硬化させた。また、本管部分については一体型施工が難しく、閉塞目的も兼ねた本管補修後に穴を開けて対応した。

取付管内

(ジャバラとのジョイント部分)

施工前



施工後



本管部分

取付管ライニング



取付管ライニング 施工中



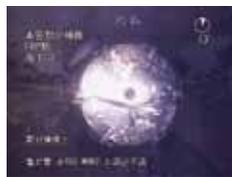
切削工



取付管ライニング 施工後

部分補修

部分補修
施工前



施工中



施工後



切削工(穴あけ)



施工完了